

第4回 焼津市地域総合交通体系あり方検討委員会
議事要旨

日 時：平成29年3月14日（火） 10：30～11：50

場 所：焼津市役所 会議室棟 203号室

■委員（敬称略）

| | | |
|-----------|-------------|------------------|
| 愛知工業大学教授 | 伊豆原 浩二（委員長） | |
| 南山大学教授 | 石川 良文（副委員長） | 欠席 |
| 焼津商工会議所 | 畑 昇 | |
| 大井川商工会 | 小澤 代輔 | |
| 自治会連合会会長 | 丸山 昭夫 | 欠席 |
| 静岡運輸支局 | 鈴木 成幸 | |
| 静岡県地域交通課 | 林 聖久 | |
| 焼津市未来創造部長 | 杉本 瑞穂 | （代理）政策企画課長 飯塚 真也 |
| 焼津市都市基盤部長 | 秋山 藤治 | |

■事務局

焼津市都市基盤部都市計画課

<配布資料>

会議次第

資料「焼津市における望ましい公共交通のあり方（案）」

第3回委員会での意見に対する対応状況

(1) 焼津市における望ましい公共交通のあり方(案)について

*資料 説明(事務局)

*第3回委員会での意見に対する対応状況 説明(事務局)

委員長 : 第3回協議会での指摘を踏まえ追加修正をした資料が、本日の資料である。意見はないか。

委員 : P15、基本的な考え方の3番目「利用者需要や地域ニーズに対応した適正な公共交通の整備」について。「適正な公共交通」とあるが「的確」がよいのではないか。検討いただきたい。

また、次年度策定する地域公共交通網形成計画は、この「焼津市における望ましい公共交通のあり方」を基に検討することになるだろう。基本理念に「市民が暮らしやすい」とあるように、住民本位が重要視されているのはよい。市民が暮らしやすくなるためには公共交通にどのようなことが必要か、今後も継続して検討いただきたい。地域別に課題を掘り下げ、地域ニーズに対応した公共交通網を形成していただきたい。期待している。

委員長 : 前半は言葉の表現についての質問、後半は意見だが、事務局いかがか。

事務局 : 言葉については検討する。また、ご意見については、地域公共交通網形成計画について委員の皆様と相談することがあると思うため、その際はよろしくお願ひしたい。

委員長 : 他にないか。

委員 : P15、基本的な考え方の4番目「交通事業者、地域住民、行政の協働による公共交通の利用促進」について。公共交通の整備推進は、交通事業者、地域住民、行政の三者協働だが、地域の公共交通を守り育てるは、地域住民だけになっている。「守り育てる」も三者の協働にしたほうがよい。

P16のイメージ図について。現在は公共交通ネットワークの現況図、今後は構想図になっている。市民が見た時に、支線を廃止するようなイメージが出かねない。そのため、表現を工夫した方がよいと思う。

委員長 : P15の文章表現について。「地域住民の手で」を削除すると、三者の協働が「利用促進」にも「守り育てる」にもかかる。もしくは、「地域住民」という言葉を入れて、あえて強調する。いかがか。

事務局 : 前回の協議会で、委員長から「地域の人を中心になることも考えた方がよい」との意見をいただいた。その意図が残るように表現を見直す。また、「地域住民の手で」を削除しては、ということだが、よければその表現にしたい。

委員 : 「地域住民の手で」が入っているのは、自分たちで公共交通に乗らないと公共交通がなくなっていく、という意思表示であるにとらえている。「協働に「より」利用促進を進める」とすれば、三者で「守り育てる」という意味にもなる。

委員長 : 「より」にすると、後半の文章(守り育てる)にもかかってくる。「地域の公共交通を地域住民の手で守り育てる」とすれば、「守り育てる」に「地域住民の手」が直接かかってくる。

事務局 : そのように修正する。

- 委員長** : P16 のイメージ図について。他の委員の方も同じように感じているのではないか。これは、表現の仕方が難しい。
- 委員** : 今後は、一色和田浜線がなくなるイメージがある。一色和田浜線は、利用者数が一番多い路線であるが、行政負担の大きさの面では最も悪い路線である。
- 委員長** : 事務局としては、現在のフィーダー路線を見直したいという意図があるのだろう。
- 事務局** : 今後の公共交通ネットワークがどのように変わるのかわかりにくい、という声があり、現状のイメージ図を並べて掲載した。委員の方の意見を踏まえ、今後のイメージ図だけを載せるということでもよいかと思う。
- 一色和田浜線については、路線をなくしたいというイメージではない。あくまでも、拠点に支線が集まるイメージにしてあるだけである。
- 委員長** : 現在のネットワークを描くとこのような図となる。冗長な路線で費用負担が増大しているなどの問題や課題を絵で表現するのは難しい。そのため、現在の図よりも今後の図の方がさびしく感じられる。事務局の意見のように、今後の図だけにするという手もある。
- 委員** : 自主運行バスは、冗長で時間がかかるため様々な指摘を受けている。そのため、時間をかけ段階的に見直しを行っていく。
- イメージ図については、現状の図を削除することも一案といえる。
- 委員** : 合併時に、大井川地区の路線を増やしていただいたが、公共交通を利用しない地区にも気を使って運行していただいている結果だと思っている。
- 将来的に公共交通ネットワークの見直しをしっかりとやっていただくのであれば、市の思いを伝えるため、現況と将来の2枚のイメージ図があった方がよい。今後のイメージ図に支線を多く入れれば、住民は安心するのではないか。
- 委員** : 凡例にも市の思いを書き加えた方がよいのではないか。「利便性の高い幹線軸」に対し「効率的な支線」と書くなど。
- 委員長** : イメージ図には、幹線と支線が描かれているが、自主運行バスは支線という位置づけなのか。
- 事務局** : 総合連携計画において支線として位置づけられている。
- 委員長** : 今後のイメージ図の支線の密度を高くする。中心的な拠点となる焼津駅の方がその他の拠点に比べて密度が高くなるため、支線の表現を描きわけ。支線の色を濃くし、サービスを向上させるイメージにする。凡例に「効率的」「機能的」という言葉を加える。今後は現在の路線のイメージではないことを市民に知ってもらい、という思いで整理していただきたい。そのような意図であれば、現在と今後の2枚あった方がわかりやすい。
- 事務局** : 承知した。支線の凡例には、言葉を補足する。
- 委員** : 現在のぐるぐる回る路線ではなく、結節点に行きやすくなるのが伝わる絵にしていただきたい。また、デマンド交通についても住民と一緒に考えていきたい、という思いを伝えていくものにしていただきたい。
- 事務局** : 公共交通ネットワークのイメージ図は、委員長のご意見を踏まえて見直す。
- 委員長** : 他にないか。
- 事務局** : 本日欠席の丸山委員、石川委員からは、事前に意見をいただいたので、それは修正に反映する、全体についてはこれでよいと承っている、お伝えする。

- 委員長** : 資料編 P25 に、今後の検討事項が掲載されている。本編にこのようなイメージがあるとわかりやすいのだが、地域公共交通網形成計画の足かせになることも考えられるため、本編から資料編に移動している。これでよろしいか。
- 来年度の地域公共交通網形成計画では、より具体的な議論になってくる。特にバス路線については、事業者との綿密な協議が必要となってくる。ルートや運行本数など、計画でどこまで書き込めるかが大きな課題になると思う。
- 資料編 P25 に「利用者需要や地域ニーズに合わせた「路線バス」の運行内容の検討」とあるが、今後はどうするのか。本編 P15 の基本的な考え方に、「三者の協働」という記述があった。交通事業者は、運転手不足など厳しい状況にあるため、どこまでやれるかが課題と思われる。支線を事業者でやれるのか。4 条路線ではない仕組みを考える必要もある。基本的な考え方の 3 番目に「新たな公共サービスへの転換も含め」と記載されているため、「路線バス」と限定せずに、「運行方法も考えていくべき」とした方がよい。
- 下根方地区デマンド型乗合タクシーも、基本的にはタクシーである。タクシーも運転手が高齢化し大変な状況にある。そのようなことを考えると、タクシーだけではなく、79 条的なサービスも考えざるを得なくなるかもしれない。そのため、今の段階では、もう少し広い意味で「地域の移動サービスを展開する」としておいた方がよいと思う。
- また、資料編 P25、今後の検討事項として「自主運行バスの効率的な運行内容への見直し」とあるが、「自主運行バスに限らず効率的な運行形態も含めた検討」の方がよい。
- 事務局** : 「利用者需要や地域ニーズに合わせた路線バスの運行内容の検討」は、「路線バス等」にすればよいか。
- 委員長** : 「路線バス」を削除し、「運行形態の検討」や「運行内容を含めたサービスの検討」にすればよい。
- 事務局** : 本編の課題 (P13) も同じ表現にした方がよいか。
- 委員長** : 「路線バス」と書かれてあると、検討対象は路線バスのみとなる。もっと広い意味で検討するとした方がよい。
- 事務局** : 承知した。合わせて、本編 P13 も「路線バス」を削除する。
- 交通事業者とは、今年度から少しずつ調整しているが、来年度の地域公共交通網形成計画の中で具体的に調整を行いたいと話している。
- 委員長** : バスなのか、デマンド交通にするのか、地域住民と事業者の意向がリンクできるようにしておかなければならない。
- デマンド交通は、需要が増えるとコストが増加する。このような事情は、住民に理解してもらい必要がある。NPO による公共交通空白地有償運送という方法もある。いろいろな運行形態があるため、住民とわかりあうようにすることが重要である。
- 交通はシステムをつくれればよいということではなく、利用しやすい環境をつくっていくことが重要である。地域の活性化につながる仕組みまで考えていく必要がある。また、このような仕組みには、下支えするサービスが必要不可欠となる。
- 公共交通を支える仕組みを商店街の人も一緒に考えてもらう。そうすると、まちの活性化を身近に感じてもらうことができる。このような交通の仕組みづくりを、焼津市の地

域産業の担当、商工会などと連携し、地元のみなさんと展開する。

来年度、地域公共交通網形成計画を立案するにあたっては、このような点も考慮していかなければいけないと思う。

事務局 : 地域の方も巻き込む形については、委員長とも話をしてきたので、資料編 P25 の「その他」に「地域の公共交通を応援する団体、人材の育成」を記載している。庁内の連携については、計画策定時に連絡を密にすることで実行したい。

委員長 : 他にないか。
本編 P15、基本的な考え方の 3 番目は、「地域ニーズに的確に対応した公共交通」に変更するのか。

事務局 : そのように修正する。

委員長 : 他にないか。
また、文章については、事務局でチェックするので一任させていただきたい。

事務局 : 本編 P15、基本的な考え方の 4 番目、「協働」については記載内容を工夫する。P16、イメージ図については表現の仕方を工夫し、現況と今後のイメージ図を掲載する。今後、地域公共交通網形成計画の策定を進めていく上では、事業者との調整が必要となり、事務局の思いをそのまま反映することが難しい案件も出てくると考えている。本資料は、修正後市長に報告し、委員の方に送付する。